



能登という地で育つこと。
能登という地を育てること。
広がる学び舎



HIGH SCHOOL
NOTO
PROJECT

能登高校 NOTO HIGH SCHOOL
MIRYOKUKA PROJECT
魅力化プロジェクト



能登町唯一の高等学校

能登町は能登半島の内浦に面する人口約 16,000 人の小さな町です。

海と山に囲まれた豊かな自然と、そこで醸成された歴史ある伝統と文化に満ちています。恵まれた自然環境とその保護への取り組み、それに伴う農林水産業・伝統技術が評価され「能登の里山里海」は世界農業遺産に認定されました。祭礼の文化も盛んで、日本遺産である「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」は町の大きな誇りです。

能登高校は、そんな能登町唯一の高等学校です。

普通科「文系 / 理系」・地域産業科「生物資源（農業選択・水産選択）/ ビジネス」の 4 コースを開講しており、高校の所有する船「おとり丸」での漁業実習、地元企業と連携して取り組む問題解決型学習など、地域性を活かした学習が特徴です。

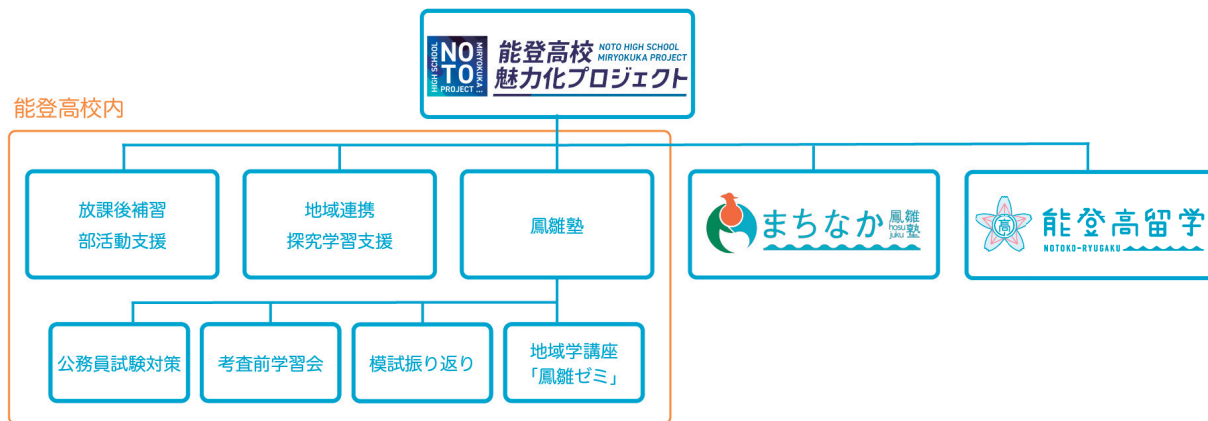
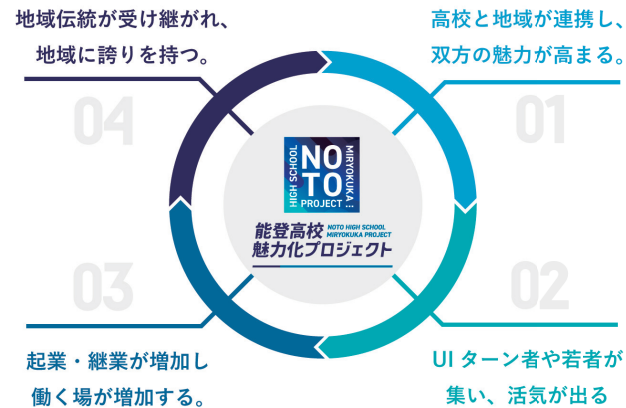
[能登高校 紹介動画 \(YouTube\)](#)



能登高校魅力化プロジェクト

かつて能登町内に3校1分校があった高校は、少子化に伴う統廃合の末、現在は能登高校のみとなりました。高校は地域の生活になくなくてはならない存在ですが、能登高校が開校した2009年以降も生徒数が減少し、存続が危ぶまれていました。そこで能登町は2016年「能登高校魅力化プロジェクト」を開始しました。「高校がより一層魅力的になって存続・発展し、地域の人材育成とUIターンを支え、町を活性化させる」これがプロジェクトの目指す姿です。

下記の図は、能登高校魅力化プロジェクトの全体像です。学校の内外から能登高校の魅力化を図ります。



まちなか鳳雛塾の設立

まちなか鳳雛塾は、能登高校魅力化プロジェクトの一環としてスタートした公営塾です。

能登町では高校進学先の選択肢が少ないことから、能登高校には学力・希望進路が多様な生徒が集まっています。また、都会で一般的な塾や予備校などの教育機会が少なく、進学へのサポートを受けるための選択肢が限られています。こうした状況を変えるため、能登町は2016年にまちなか鳳雛塾を開校しました。

まちなか鳳雛塾の特徴は、能登高校の多様な生徒に対して個別にアプローチすることです。ここでは個別・集団授業、オンライン講義、ICT教材を利用して、生徒一人ひとりに合わせた学習をサポートし、希望進路の実現を支援します。また、町の子どもたちにも能登高校生とのつながりを持ってほしいという考えで、町内の中学生にも学びの場を提供しています。

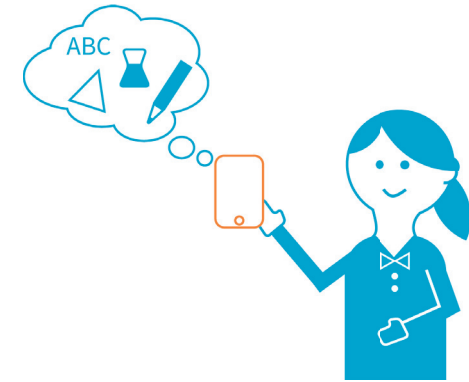
そして、もう一つの大きな特徴は、教科外学習にも積極的に取り組んでいることです。地元企業や大学と連携したワークショップ、能登でのフィールドワークを通じた地域学、芸術鑑賞や交流活動などを行っています。

能登高校魅力化プロジェクト
Webサイト



進路につながる学び

生徒一人ひとりに合わせて教科学力の向上をサポートします。「個別指導・集団講義・オンラインミーティング・チャットなど、方式を問わない多様な授業形態」「ICT教材を活用した問題演習」「学校課題のフォローアップ」「小論文の添削指導」「寮生への学習指導」など、多様な学力・希望進路を持つ能登高校生に対応するため、様々な方法を用意しています。また、まちなか鳳雛塾では教科学力の養成だけが進路実現のサポートではないと考えています。生徒が将来に対するイメージを掴むため、興味のある職種の働き手や希望進学先の大学生など、その道の先輩から話を聞く機会として「先達との語らい」を積極的に行っています。



ICT教材の活用

ICT教材を活用した授業・問題演習を行っています。塾のタブレット端末や、自宅のPC・スマートフォンなど、どこからでも教材にアクセスすることができます。



多様な指導形態

教室での個別・集団指導に加えて、ICT教材や講義動画を用いたリモート授業を行っています。また、卒業生によるオンラインサポートチームが個別に対応します。さらにzoomやチャットでの質問・相談も可能で、通塾が難しい場合でもサポートを受けることができます。能登高校の寄宿舎である鳳柳寮への学習指導も併せて行っています。



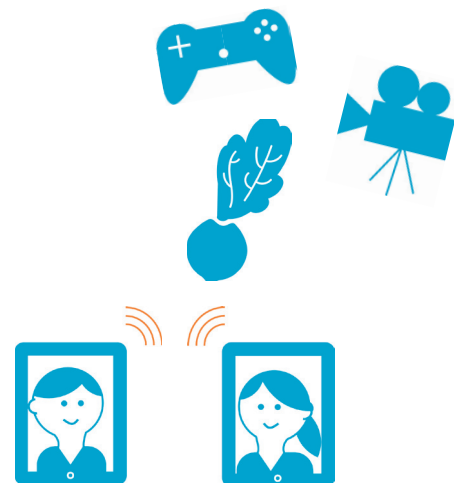
先達との語らい

生徒が興味を持っている分野の大学や職場にいる方々から、進路選択につながるお話を聞く機会を積極的に設けています。過去には物理学者、TVディレクター、フローリスト、エンジニア、薬学部生など幅広いゲストと対話しています。



人生につながる学び

豊かな学びには、直線的な道のりから飛び出すことも重要です。トマトやメロン、ナスやトウモロコシなどの野菜を自分達の手で育てる「まちなか農園」や、英語で流行歌を合唱する「洋楽を歌う会」、ゲストスピーカーと人生の決断や紆余曲折について語り合う「進路選択について語る会」など、将来の広がりを感じられるイベントを随時開催しています。



eスポーツ体験会

NTT 西日本と共同開催したeスポーツの体験イベントでは、業界の第一人者による講演とともに、ぶよぶよトーナメントやグランツーリスモ体験会、クイズゲーム大会などに熱狂しました。近年プロシーンや世界大会など広がりを見せているeスポーツですが、まちなか鳳雛塾は時代に先駆けて活用を進めています。



ウクライナについて知る会

国際情勢のニュースでよく耳にするようになったウクライナですが、実際に話を聞いてみると見え方が変わるかもしれません。ウクライナとロシアの両国に居住していたお二人から、政治や経済、文化や生活の様子など多岐に渡ってお話を聞きました。

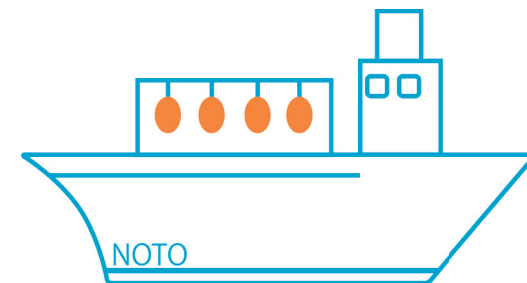


カンボジア国際交流

北陸大学の国際コミュニケーション学部と協力して、カンボジア国際交流会が開かれました。能登町内の小学生と、カンボジアの小学校がズームでつながり、一緒に歌を歌い、理科の実験を行いました。慣れない異文化交流の場にドキドキすることも、人生にとって重要な体験かもしれません。

地域につながる学び

能登町の全てが学びの場に成り得ます。世界農業遺産に認定された能登の里山里海、祭礼や工芸などの伝統文化は豊かな発見の宝庫であり、少子高齢化や過疎などの課題先進地域である能登町は、問題解決型学習のリアルな実践の場でもあります。まちなか鳳雛塾では星空観察や水辺探索、蛍鑑賞などのフィールドワークを行い、能登町から得られる学びを引き出します。さらに「ふるさとに誇りを持ち、地域社会の創造・発展に寄与する人材を育成する」という能登高校の教育方針を尊重し、高校へのサポートも行っています。



能登町地図ワークショップ

東海大学の観光学部と共同開催した「地図作成ワークショップ」は、能登町を地理的なアプローチで再発見する試みでした。大学での学びを一足早く体験し、観光学・地理学の視点から普段住んでいる土地について考えました。



地域に触れる "まちなかの道草"

海と山に囲まれた能登町は、フィールドワークでの学びを得る絶好の場所です。まちなか鳳雛塾では"まちなかの道草"として、星空観察や水辺探索、蛍鑑賞など、町の魅力が感じられる体験をし、そこから得た感覚を言葉にして記憶に残す機会を設けています。

総合的な探究の時間

能登高校の正課である「総合的な探究の時間」では山積する地域社会の問題をテーマにした問題解決型学習を行っています。生徒が地域の問題を知るために、情報発信・農林業・海洋教育・デザイン等々、幅広い分野で活躍する社会人＝地域の探究実践者から直接お話を聞くイベントを企画・運営したり、塾スタッフが毎週の授業に参加して探究活動を伴走したりして、能登高校生をサポートしています。





| | | | |
|--------------------------------|-----------|---------------|------------------|
| [飛行機] 羽田空港～能登町 (約 1 時間 30 分) | | | |
| 羽田空港 | 60 分 | のと里山空港 | 30 分 能登町 |
| [車] 金沢～能登町 (約 1 時間 50 分) | | | |
| 金沢 IC | 20 分 | 内灘 IC(のと里山海道) | 1 時間 30 分 能登町 |
| [鉄道] 金沢駅～能登町 (約 3 時間) | | | |
| 金沢駅 | 2 時間 15 分 | 穴水駅 | バス or 車 50 分 能登町 |
| [バス] 金沢駅～能登町 (約 2 時間 50 分) | | | |
| 金沢駅西口 (珠洲宇出津特急) | 2 時間 50 分 | | 能登町 |



利用料：3,000 円 / 月

※別途教材費がかかる場合があります。
 ※その他、能登町公営利用料徴収規則に基づき、各種減免措置があります。詳しくはお問合せください。

能登町営まちなか鳳雛塾

〒 927-0433 石川県鳳珠郡能登町字宇出津ター 8 0

☎ 0768-84-5282 (受付時間 平日 16:00 ~ 21:00)

machinakahosu machinakahosu

